

第3回 摂津市まちづくり市民会議 議事概要

日時：5月29日（金）19:00～21:15

場所：摂津市立男女共同参画センター 大会議室

出席者：市民21名（欠席3名）、事務局7名、コンサルタント5名

1. 第2回全体会議とバスツアーのふりかえり

- ・5月24日に開催した「市内めぐりバスツアー」について、当日の写真やふりかえりシートの内容をもとにふりかえりを行いました。

2. 意見交換～摂津市のまちづくりの方向性（一次案）

- ・最初に議論の進め方について進行役から説明がありました。その後、4つのグループに分かれて、将来都市像やまちづくりの目標について話し合いました。

3. 発表と共有

- ・話し合ったことについて、各グループから発表がありました。

[まち部会④]

- ・話し合いの中で、「市民」という言葉がたくさん出てきたので、キャッチフレーズを「市民が創る明るい摂津」としました。行政だけに任せるのではなく、市民のみんなが主人公となって、市民参加で創り上げるという観点でいろいろな話をしました。
- ・まちを明るいイメージにしたいと思います。人間関係は、旧村地域でもなく、新興地域でもなく、ちょうどいい感じだと思います。人間関係が盛んになることが大切です。その中でも、血縁ではなく「子縁」、子どもを通じた縁が、今一番縁が深いように思います。また、これも造語ですが、病院での付き合いが多いということで「病縁」などもあります。様々な面で人々の深いつながりがあれば良いと思います。
- ・住みよいまちにしたいということで、西宮や高槻など他市の話も出ました。それでも高齢者は便利なので正雀にいたいというご意見もありました。
- ・摂津市は一体感を持ちにくいので、一体感を持てるようにしてほしいと思います。市内が分断されているので、例えば、ワゴン車サイズでもよいので、循環バスをもっと増やすことが考えられます。

[まち部会③]

- ・まちづくりの目標について話し合いました。
- ・最初は「市民一人ひとりを大切にしているまち」です。市立病院を整備するのは大変なので、今おられるお医者さんをどうつないでいくか、医療の立地の偏りをどうしていくのかということが大事だと思います。また、高齢者にいろいろとサービスしてくれるのはありがたいけれども、若い人もバランスをとれる程度にしておかないと長

続きしないのではないかというご意見もありました。そうしたバランスをどのようにとっていくのかを考えていく必要があると思います。

- ・ 2番目は「市民一人ひとりの『顔』が見えるまち」です。「顔が見える」ということは、それぞれの人たちがいろんな活動の中で「あの人は特技を持っている」、「あの人はこれにがんばっている」とかが見えてくるということです。存在感があり、人とお付き合いもいろいろとあるという意味を込めて、「一人ひとりが顔の見えるような人になろうよ」ということで、このタイトルをつけました。摂津市は共働きの若い世代が多いので、共働きの人を応援するような施策をぜひ考える必要があるように思います。また、若い人が魅力を感じるようなサービスを考える必要があります。また、わくわく広場の活動をもっと広げていくようなことや、同居・近居ニーズに対応した施策を考える必要があるなどのご意見もありました。
- ・ 3番目は、「魅力あふれる憧れのまち」です。歴史・文化については、資料館の整備ありきではなく、どうやって歴史文化と市民がつながっていくかもっと考えていく必要があります。また、先日のバスツアーで「一津屋」に行きましたが、神崎川に「三津屋」というところがあり、まちおこしによってとても活気があるそうです。一津屋と三津屋の交流などにより、一津屋を盛り上げる方策を考えることができればと思います。
- ・ 4番目は、「快適で住みやすいまち」です。街路樹の管理など、地域で話し合っ、お世話係を決めるなど仕組みを作らなければいけないと思います。また、自転車に安心して乗れるということも大事です。街路樹の管理と自転車について考えていく必要があります。
- ・ 最後に「みんながまちづくりの主人公」です。もともと例では「市民」と書いてありましたが、「みんな」という言葉に置き換えました。市民だけでなく、行政・議会・企業も市民として参画する仕組みや、企業も市民として責任を持ってもらえるようなことを考えていきたいと思います。
- ・ 将来都市像については「大いなる下町・せつつ」とし、あわせてサブタイトルとして「市民・地域・企業・学生・議会総ぐるみでご近所の底力を発揮する」とつけました。このようなまちが将来都市像のイメージとして話し合われました。

[くらし部会②]

- ・ 大きな項目を5つ挙げ、「2つの土台」の上に「3つの大きな項目」が乗っているというまとめになりました。
- ・ 「福祉・医療」に関しては、ホームドクターをつくり、高度な医療については近隣都市との連携を取って医療に力を入れていきたいという意見がありました。
- ・ 「子育て・教育」に関しては、学校教育でまず基礎的な学力をつけるということと、家

庭での教育を加えて生きる力を育てるという意見がありました。

- ・「文化・歴史」については、歴史資料館と新幹線や水辺に関する話がありました。歴史資料館については、過去、現在についてPRをしていく必要があります、未来に関しては摂津市の特色を活かしていかないといけないという話でした。全体としては、摂津らしさ、摂津自身の特色を生かしていこうということになりました。
- ・上の方の土台「環境・道路（生活）・インフラ」は、ハードに関する土台です。市民では対応ができないので、市に対応していただく必要があります。生活道路が荒れていて生活がしにくいという意見が多くありました。道路整備を進めて欲しいと思います。
- ・下の方の土台「市民 人づくり・組織づくり」は、ソフトに関する土台です。人と人との結びつきが強いまちということで、最後に人々がまちをつくっていくと書いていますが、市から命令が下って市民がどうにかしていきましょうという話ではなく、市民からまちを作っていくことができないか、ということ考えてみました。
- ・最後に大きなタイトルとして、「市民が育むまち“せつつ”」というタイトルをつけました。

[くらし部会①]

- ・1班のメンバーは誰よりもいちばん摂津を愛している人たちばかりです。そのため、キャッチフレーズや理念より、もっと具体的に本当にこんなことがやれるということをやらなければと意味が無いと考えました。最後に、「摂津がふるさととして感じられ安心して幸せに住み続けられるまち」と集約しました。
- ・1番目は「老人や子どもが安心して暮らせるまち」です。高齢者と子どもだけ元気で、真ん中はどうでも良いかという決断はしてそうではありません。高齢者と子どもが安心して暮らせるということは、摂津市民全員が元気に暮らせるということだと思います。
- ・2番目は「子どもたちがのびのびと勉強できる環境が整備され市立中学校の教育レベルが高いまち」です。摂津市は、どうしても近隣都市よりも少しだけ成績が落ちているようです。のびのびと勉強できる環境をつくってあげてレベルアップをしていくことができればと思います。
- ・3番目は「全国に誇れるものがあり、それがしっかりPRされているまち」です。何か1つ特色があるものを全国や全世界にアピールできるような特色づくりを進めたいと思います。
- ・4番目は「緑あふれる空気がきれいでほっとできるまち」です。例えば、茨木市では、森のようなところから川まで広がっていますが、摂津はコンパクトなまちです。だからかえってほっとできるのではないかと思います。
- ・5番目は「市内のイベントや情報をみんなが知ることができるまち」です。今、市では何をしているのか、公民館ではいつどこでどんなことをやっているかということが、

広報紙はあるものの市民の皆さんに伝わっていないと思います。そうではなく、もっと皆さんに市では今何が問題になっていて、どういうことに取り組んでいるのかを知ることができれば、もっと市民は理解も参加も協力もできると思います。もっとしっかりと情報を発信していく必要があります。

- 最後に「市民がまちづくりの主人公のまち」です。まちづくりはどうしても誰かがやってくれるだろうという感じになりがちですが、一人ひとりが元気に自分の市をつくっているのだという意識を持つことが必要だと思います。

- 発表内容については、一つに集約をすることは現時点では行わず、現時点での議論の到達点として「中間とりまとめ」を行い、6月末を目指して市に提出する予定です。
- 次回からは部会活動となり、具体的な施策の提案を検討していくこととなります。

4. 今後の日程について

- 部会の日程は次のとおり。
 - 6月16日（火）19時から 男女共同参画センター
 - 6月30日（火）19時から 男女共同参画センター
 - 7月21日（火）19時から 男女共同参画センター
- 最後に、「ふりかえりシート」にご記入いただき、第3回のまちづくり市民会議を閉会しました。

(以上)